

令和7年11月1日

ひので
議会だより

みらい

No. 216

令和7年
第3回定例会



日の出町
ひのでちゃん

Contents

新しい議会構成		P2
議案と結果		P4
一般質問 町政を問う	...	P5
視察レポート		P11
予算決算 Q&A		P12
議会日誌		P14

新しい議会構成が決まりました

令和7年日の出町議会第3回定例会（8月29日開催）において、正副議長をはじめ各種委員会等の新たな議会構成が決まりました。

議長・副議長就任にあたり



議長
長 映慈
濱中



副議長
嘉倉 治



監査委員
平野 隆史

議会選出監査委員に就任

町民の皆様には、日頃より町議会に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
このたび、令和7年第3回定例会において、議員各位のご推挙を賜り、正副議長を拝命いたしました。改めて議会に課せられた使命の重大さを痛感し、新たな決意を持って円滑な議会運営と町政の発展に全力で取り組みまいります。

不安定な国際情勢が続く中、町では長引く物価高騰への対応をはじめ、自然災害の頻発化・激甚化への備え、また、人口減少・少子高齢化対策など課題は山積しております。これら様々な課題に的確に対応するため、議員一人ひとりが二元代表制の一翼を担う議会の果たすべき役割を十分に理解し、自らの資質向上に努めることにより議会の機能強化を図り、町民皆様の信頼に応えるべく、行政に対する監視機能を果たしつつ、安全・安心で持続可能なまちづくりを進めてまいります。

町民の皆様には、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

令和7年11月1日

議長 長 映慈
副議長 嘉倉 治

日の出町議会各種委員会等構成表

議 席 番 号		1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	定 数
議長◎ ・ 副議長○														○	◎	
氏 名 種 別		野 崎 智 経	玉 井 大	埴 康 平	鈴 木 正 彦	下 向 辰 法	大 澤 弘 子	濱 中 直 樹	木 住 野 智 行	縄 井 貴 代 子	萩 原 隆 旦	川 脇 敏 徳	平 野 隆 史	嘉 倉 治	濱 中 映 慈	
監 査 委 員													○			1
議 会 運 営 委 員 会					副	○	○	○	長	○		○		○		8
予算決算常任委員会		○	○	○	○	○	副	○	○	○	○	長		○		12
総務まちづくり常任委員会		副				○			○	長	○		○		○	7
厚生文教常任委員会			副	○	○		○	長				○		○		7
一 部 事 務 組 合	阿伎留病院企業団議会		○			○		○								3
	西秋川衛生組合議会						○			○	○					3
	秋川流域斎場組合議会	○			○							○				3
外 部 の 協 議 会 ・ 審 議 会	三多摩上下水及び道路 建 設 促 進 協 議 会	3				2	1								○	4
	秋 川 流 域 下 水 道 促 進 協 議 会		○					理		理				○	○	5
	西多摩地域広域行政圏 協 議 会 審 議 会								○					○	○	3
	J R五日市線改善 促 進 協 議 会	○	○		○	○	○							○	○	7
	三鷹立川間立体化複々線 促 進 協 議 会									○					○	2
日 の 出 町 都 市 計 画 審 議 会			○			○			○					○		4
議会だより編集委員会		○	○		副	○	長			○						6

※ 表内記号の説明 長＝委員長 副＝副委員長 理＝理事

三多摩上下水及び道路建設促進協議会 1＝第1委員会（上水道） 2＝第2委員会（下水道） 3＝第3委員会（道路）

議 案 と 結 果

令和7年第3回日の出町議会定例会（会期：令和7年8月29日～令和7年9月18日）

＜町長提出議案＞

○…賛成 ×…反対 ー…欠席

番号	議 案 名	自	公	み	レ	立	都	黎	結 果
38	人権擁護委員の候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	ー	同 意
39	人権擁護委員の候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	ー	同 意
40	日の出町公共下水道事業審議会条例	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
41	日の出町職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
42	日の出町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
43	日の出町こどもの医療費の助成に関する条例等の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
44	日の出町下水道条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
45	令和7年度日の出町一般会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
46	令和7年度日の出町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
47	令和7年度日の出町介護保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
48	令和7年度日の出町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
49	令和7年度日の出町下水道事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
50	令和6年度日の出町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	ー	認 定
51	令和6年度日の出町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	ー	認 定
52	令和6年度日の出町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	ー	認 定
53	令和6年度日の出町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	ー	認 定
54	令和6年度日の出町下水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	○	○	○	○	○	○	ー	認 定
55	町立平井小学校屋内運動場・特別教室棟改修工事（屋上防水・外壁補修）請負契約の締結について	○	○	○	○	○	○	ー	可 決
56	日の出町副町長の選任について	○	○	○	○	○	○	ー	同 意
57	日の出町監査委員の選任について	○	○	○	○	○	○	ー	同 意
58	消防ポンプ自動車（第1分団第2部）購入契約の締結について	○	○	○	○	○	○	ー	可 決

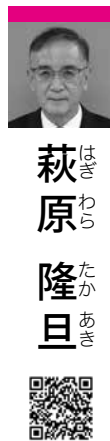
＜陳情＞

○…賛成 ×…反対 ー…欠席

番 号	陳 情 名	自	公	み	レ	立	都	黎	結 果
7陳情第1号	「建築物石綿含有建材事前調査・除去費用の国民への周知と国民負担軽減措置を求める国への意見書」提出を求める陳情書	○	○	○	○	○	○	ー	趣 旨 採 択

＜各会派の名称と所属議員＞

会 派 名	略号	所 属 議 員（★印…会派代表者）	
自民蒼政クラブ	自	★木住野 智行・濱中 映慈・平野 隆史・川脇 敏徳・濱中 直樹・玉井 大・野崎 智経	7人
公 明 党	公	★嘉倉 治・縄井 貴代子	2人
レ モ ン の 会	レ	★大澤 弘子	1人
み ど り の 会	み	★萩原 隆旦	1人
立 憲 民 主 党	立	★下向 辰法	1人
都民ファーストの会	都	★鈴木 正彦	1人
黎 明 会	黎	★塙 康平	1人



はぎわら たかあき
萩原 隆旦



西多摩社会保険推進協議会が発行した「西多摩社保協ニュースの本年3月臨時号」に掲載された町長の選挙公約について

Q 「児童館などを充実していく」との公約の内容と時期は。

A (課長) 老朽化している現在の児童館は対策を調査検討中。児童館が町内一カ所のみで地域間の利用格差への対応は、子育て世代の意見を参考とし民間連携も含めて検討する。

学童クラブは現状の指導員配置を継続し、小学6年生までの受け入れを検討する。時期はニーズや財政状況から適切な時に推進する。

Q がん医療費助成復活について「国会議論をふまえて制度設計を検討」との公約の内容と時期は。

A (課長) 対象が「がん」のみであることや、複雑な給付手続き等により「正確・公平・公正」性に課題があった。また国会では高額療養費制度の負担上限額の引上げが見

送られ、がん患者への配慮がなされたことは注目される。今後は予防や早期発見に重点を置いた制度設計を検討する。

Q 「在宅介護中の親族を支えることは重要で手当の充実を検討する」との公約の内容と時期は。

A (課長) 生活基盤改善の支援策としてレスパイトケア(注)の実効性などを研究する。

Q 「包括支援センターを充実する」との公約の内容と時期は。

A (課長) 介護予防・生活支援・社会参加・認知症施策等を進め、より身近で頼れる存在となるよう努める。

(注) レスパイトケアとは介護者の心身の負担を軽減するようサポートする制度です。



志茂町児童館 (平井地区)



すずき まさひこ
鈴木 正彦



東京都の補助金活用について

Q 自主財源確保が進まない中、東京都では多くの補助金があり、町ではどのように捉え、活用しているかを伺う。

A (町長) 毎年度、予算編成方針において、各課所属長に対し「適切に情報収集を行い、漏れなく確保すること」、「補助制度の動向等に常に注意を払い的確に見積もること」等を伝えている。しかし活用について留意すべきことがあり、補助金の対象となる経費はほとんどが導入にかかる経費のみとなり、後年のランニングコストは自治体負担となる。補助金ありきで安易に事業を構築することは後年経常的な経費の肥大化を招く。持続可能な行政財運営を確立するため、補助金は町が本来に実施すべき事業を見定めたうえで、あくまで財源のひとつとして活用していくものと捉え、本当に実施すべ

き事業に対する補助金は漏れなく活用していく。

Q 3C補助金活用している中でチルドレン事業の今後は。

A (課長) 育児相談の実施やモバイルシステムの導入。これらの運用ほか、大規模な商業施設と連携した子育て支援情報の発信など継続的に行っていく。

Q 集客策として「つるつる温泉」にEVステーションを設置すべきと思うが。

A (課長) 現状での計画はないが、脱炭素社会への移行とEV普及という時代の流れに沿った将来的なインフラ整備の必要性から進められていることは承知している。今後研究を進めていく必要があると考えている。



東京都には様々な補助事業があります



嘉倉 たくひろ

治 おさむ



脱炭素社会に向けた日の出町の取り組みについて

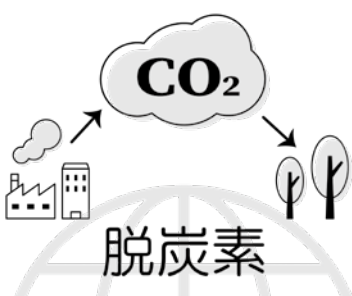
Q 日の出町地球温暖化対策実行計画に基づく「地球温暖化対策計画事務事業策定」の概要は。

A (課長) 2050年カーボンニュートラルの達成を目指し、2030年度までに2023年度比で温室効果ガス26%削減を目標とする。年一回関係部署で構成する「日の出町地球温暖化対策実行計画庁内検討会」にて温室効果ガスの排出量の確認、削減方法等検討する。また広報ひので等にて報告する予定である。

Q 庁舎内のLED化が本年実施されるがCO₂削減効果は。

A (課長) 一年で約6711kgのCO₂削減で50年育成の杉の木約479本分のCO₂吸収量に相当する効果がある。

Q エコ住宅補助金の周知徹底と補助金の増額を図るべき



では。

A (課長) 町では太陽光発電システム、太陽熱温水システム、蓄電池システム、既設窓の高断熱改修、既設玄関ドアなど6種類の補助を実施している。

都内全域の建築物への太陽光パネル設置率は3.75%に対し、町は6.33%で最も高い設置率となっている。今後も効果的な周知方法を検討する。

Q デコ活の推進は、民間企業との連携が必須である。三吉野工業団地との協定を視野に入れるべきでは。

A (課長) 民間企業との連携は重要と考えている。先ずは実行計画を軌道に乗せていきたいと考える。



縄井 貴代子



クマなどの人身被害に新たな対策を

Q 本年9月から実施された「緊急猟銃制度」の活用について。

A (課長) 条件を満たした場合にかぎり、市町村長が捕獲者へ委託し、猟銃による捕獲を実施できる制度が新設された。今後も、町民や来訪者へ人身被害が生じないよう関係機関と連携を図り、クマの防除対策に取り組んでいく。

Q 現時点のクマ対策を伺う。

A (課長) クマの出没場所の近隣に箱罠を設置し、町職員によるパトロールを週3回実施。出没情報は速やかに東京都へ報告し、町民へ情報をメール配信している。クマ出没の一つの誘因となるごみ等の排出についても、回収日の朝に出していただく周知に努めている。

町民へ寄り添った安心安全な移動手段の確保について

Q 令和7年5月より、高齢者



縄井 貴代子

外出支援バスのルートが変更された。町民の反応や効果について伺う。

A (課長) 歓迎の声が一定数寄せられた一方で従来ルートが変更され、利用が不便になったとの意見もある。今後も定量的・定性的の両面で引き続き検証を行い、持続かつ公平な公共交通の提供に努めていく。

Q 運転免許証の自主返納者へ、その後の生活を支援するサービスの検討を求める。

A (課長) 現在、町は給付から環境的支援への転換を図っている。住民福祉のサービス向上は、総合的に判断している。



庁舎前で待機する高齢者外出支援バス



しもむかい たつのり
下向 辰法



移住定住・空き家対策について

Q 当町で、移住定住・空き家

対策として実際の空き家を利用して設計アイデアコンペ、設計コンペの開催する
考えがあるか。

A (町長) 西多摩地域が一体となり相互に連携することで、移住・定住対策と空き家対策が相互に補完できるような施策を展開していくことも重要である。

A (課長) 個人が所有する建築物を対象に町が設計コンペを開催するには、所有者の同意等も必要になり、現段階では考えていない。

教育と人材育成について

Q 地域の持続可能社会を作るには、人間力を育む教育が必要と考えるが方策は。

A (室長) 日の出町では人間力を育む方策としては、日々の生活の中で、子どもたちが自ら考え、行動する習慣を身に付けること、日々の活動を振り返り改善点を見つける



こと、相手の立場を尊重し感謝の気持ちを忘れないこと、何のための行動なのかを明確に意識することなどができるようにする教育活動が考えられる。

Q 環境教育、コミュニティ意識の育成、批判的思考と問題解決能力、協働とコミュニケーションスキル、倫理教育、実銭的なスキルの習得などが重要と思うが、考えは。

A (教員) 教育委員会では、『かわわり』と『つながり』相互承認と多様性の尊重に基づく『協働』『学びの循環』を大切にした教育を基本方針として取り組みを進め、人々が自己実現を図り共に学び、育ち合い持続可能な社会の担い手として、生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤や態度の育成に努めている。



きのの ともゆき
木住野 智行



町内の残土、盛土の状況について

Q 玉の内地区内の盛土現場である第2・3・4工区で、前回定例会後の現場の状況の変化、各工区の今後の問題解決に向けた方針や計画については。

A (課長) 特に大きな変化はない。第2工区における立ち枯れた立木は、度重なる要請により伐採された。第4工区は、土地所有者が変更となり、変更申請が必要な状況で協議に至っていない。去る6月25日、町長と共に多摩環境事務所を訪問し、直接要請を行った。

Q 長井地区の太陽光発電施設の現場で、前回定例会後の現場の状況の変化と、現場脇の水路開渠の進捗状況は。

A (課長) 特に大きな変化はない。事業主に対し、是正工事関係書類の提出を含む改善要求を通知し、9月末までに文書での回答を求めた。今後

も、事業主と協議を重ねていく。

役場内「カスタマー・ハラスメント」、「パワー・ハラスメント」について

Q 町は事業所として、どのような取り組みをしているか。

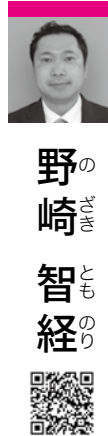
A (課長) ハラスメントを正しく理解し、心身共に健康で個々が能力を発揮できる職場の実現を目的に、研修の実施や産業医面談の確保、また、個人ではなく組織的な対応に努めている。

こども家庭センター「こそだち」について

Q 稼働前・後で業務の変化や利用者からの意見等の内容は。

A (所長) 業務の一体化により、連絡体制や情報の共有は円滑になった。関連事業拡充の要望をいただいている。





獣害対策について

Q 熊への対策は。

A (課長) 東京都とツキノワグマ防除対策事業の基本協定書を締結。見回り及び追い払い、緩衝帯整備を実施。生態や被害防止の講習会を開催予定。箱罠も設置している。

Q 見回り体制は。

A (課長) 東京都猟友会五日市地区と熊防除対策委託契約を締結、1名ないし2名で対応。

Q 箱罠の場所は。

A (課長) 大久野・新井地区に1基設置。

Q 自治会や防犯パトロール隊、目撃情報のある住宅などへ熊撃退スプレー等の装備支援を検討しているか。

A (課長) スプレーは検討せず熊鈴を講習会で配布予定。

Q 講習会の対象、実施体制は。

A (課長) 東京都が実施予定で、町民に有用な内容となるよう都と調整を図りたいと考えている。

Q 命を守る対応を最優先に熊

遭遇時の防御方法など地域住民に伝える取り組みとして、専門家を呼んだ講習会を検討しているか。

A (課長) 必ず命を守るというやり方ではないが、教育委員会から各学校へ目撃されたことへの注意喚起を行っているほか、町ホームページでも東京都や環境局の熊遭遇時の情報についてのリンクを貼り周知を図っている。

Q 猪への対策は。

A (課長) 市街地出没時は見回り・追い払いを、捕獲は山林等に追い込んで実施。猟友会に委託して対応している。



学童保育での夏休み期間中等長期休暇期間中の昼食提供について

Q 当町の学童保育での昼食提供の考えはあるか。

A (町長) 長期休暇期間中における児童の生活支援は保護者の就労環境や家庭の事情に応じた柔軟な対応が求められており、保護者の負担軽減や児童の健やかな育成支援の観点から実現に向けた検討を進めてきた。現在、昼食仲介業者との調整を行っており条件が整えば今年12月の冬休みから提供開始予定。

Q 昼食提供を実施する場合の課題と対応策は。

A (課長) 衛生管理・費用負担・業者選定・食物アレルギーへの対応の課題が想定され、課題に対応した運営体制を整備し安全かつ円滑な提供を目指す。

公共施設のネーミングライツ導入について

Q ネーミングライツ事業を実施するとして令和6年度よ

り数値目標は実施となっているが進捗状況は。

A (課長) 当初の計画より遅れている。現在、ガイドラインを作成している段階。

リチウムイオン電池の分別について

Q 町民が正しく分別できる効果的な方法についての見解は。

A (課長) 町ホームページや広報ひのでで周知しているほか、近年は、ハンディファンにリチウムイオン電池が使用されていることが多い為、ハンディファンを説明に加える等、世の中の流れに応じた商品を例に挙げて説明し注意喚起している。





かわわき としのり
川脇 敏徳



教育関係全般について

Q GIGAスクール構想の効果と課題、その対策について。

A 一人一台端末を効果的に活用し、学習意欲を高め、主体的・対話的で深い学びの授業改善を実施し効果を上げる。不登校児童生徒への活用。児童生徒側からは、自分のペースで学習を進めることができ、画像や動画音声等の活用で学習内容がよく分かるという肯定的回答。情報モラル教育等の課題については、常に検証工夫・改善。ネット上の犯罪や違法・有害サイト等には学校と家庭が連携して取り組む必要がある。基礎学力の低下に関しては、ICT教育のメリットと各教科の狙いをバランスよく取り入れる事が重要。

Q 小中学校のPTAの縮小、廃止、存続の現状と課題の対策は。

A

全国的な推移や傾向では、見直しなど様々な課題に直面している。時代のニーズに応じた運営体制の工夫が求められ、持続可能な方針を掲げて活動のスリム化、デジタル化の推進等も図る。

日の出町消防団について

Q 消防団の処遇負担軽減の方策は。

A

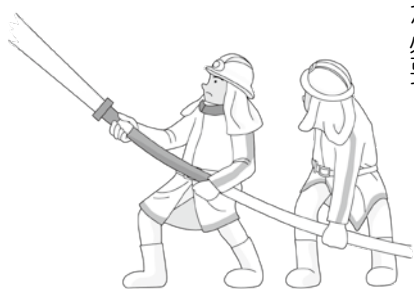
消防団は、非常勤特別職の地方公務員であり、今後も団活動が円滑に継続できるよう、可能な限り支援して行きたい。

Q

議会と消防団との意見交換会の開催は。

A

可能であるが、団長が3つの協議会や協会の会長、副会長の職にあるため日程調整が必要。



おおさわ ひろこ
大澤 弘子



学校体育におけるプールの授業について

Q 異常気象によるプールの授業の中止が続いている現状について、現在の対策は。

A

水泳指導実施計画書を作成し、児童・生徒への事前の指導の徹底、見学者への配慮、プールサイドでの活動の時間短縮、適切な休憩時間の確保等に留意して指導を実施している。また、水温調節、プールサイド床面の冷却等を実施している。今後も児童・生徒の安全を最優先し、水泳指導にかかわる国や東京都、近隣自治体の動向を注視していく。

Q 今後のプールの授業の在り方を伺う。

A

屋内プール施設を活用するについてはメリットもあるが場所の問題や使用するに当たっての費用送迎に関する移動時間等の問題があるため、今後も国や東京都、近隣自治体の動向を注視し

ながら、研究していく。

町内の文化財について

Q 肝要の里に保管されている文化財について伺う。

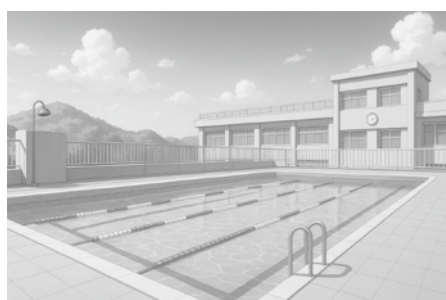
A

町史の資料の他、2000点を超える民具や出土品を保管している。全国的に保管場所確保が問題になっているが、日の出町でも文化財保護審議会や専門家の意見を聞きながら整理を進めていく。

文化財の展示公開等について、進展がないのはなぜか。

A

専門知識を有する職員がいないため、状況を改善するのが難しい状態である。現状できることを継続しながら、今後も方針を検討していく。





はまなか
直樹



町職員の地域手当・採用応募状況・災害時協力井戸制度について

Q 職員地域手当を14%にした理由は。

A 地方公務員法第24条2項「均衡の原則」、人事院勧告、近隣の状況、町の財政状況等を鑑みた結果。

Q 町職員確保のためには16%が良いのでは。

A 最終的には16%をゴールとする。

Q 日の出町で働きたいと強く望んでいる方に応募して欲しいという考えは。

A その考えに変化はない。

Q 働く場所としての町の魅力をアピールできているか。

A 成果が数字に表れていない。

Q 応募者数が少ないのはどうしてか。

A 応募者数を増やす努力を続ける。

Q 採用試験応募方法は。

A 原則書類持参とし、一部郵送による提出とする。

Q 書類持参時から応募者の姿勢などを見ているのか。

A 検討の結果、そういう視点が必要と考える。

Q その場合、地方公務員法第13条「平等取扱の原則」、同法第18条の2「採用試験の公開平等」をどう担保するのか。

A 今後検討する。

Q 応募者増のため、応募WEBエントリーを導入するのか。

A 総合的に検討する。

Q 災害時協力井戸制度について。

A 生活用水の確保手段として非常に有効かつ現実的方策と考える。

Q 実施運用までの予定は。

A 令和9年度以降に運用開始を予定したい。

12月定例会日程(予定)

日	月	火	水	木	金	土
11/16	17	18	19	20 議会運営委員会	21	22
23	24	25	26	27	28 本会議 (議案審議)	29
30	12/1	2	3	4	5 総務 まちづくり 常任委員会	6
7	8 厚生文教 常任委員会	9 議会運営 委員会	10	11	12 本会議 (議案審議)	13

会議日程は、変更となる場合があります

請願・陳情は！

12月の定例会では、11月14日までに受理したものについて審議します。それ以降の受付の場合は、次回定例会で審議することになります。

平成28年9月20日より、日の出町議会請願及び陳情取扱要綱が制定されました。

- 件名は、おおむね50字以内、趣旨、及び理由は合わせておおむね1,500字以内としてください。
- 郵送された陳情書は、要望書扱いとなりますので、必ず陳情者が持参してください。（開庁時にご来庁願います。）
- その他、詳しいことは議会ホームページの、日の出町議会請願及び陳情取扱要綱または議会事務局まで問い合わせください。

視 察 レ ポ ー ト

視察年月日 令和7年8月18日

視 察 場 所 茨城県笠間市 笠間クラインガルテン

地域特性を生かした自然や農業と親しめる環境整備を進めている笠間クラインガルテンを視察することによって、当町に於いても農業の担い手不足問題、宿泊施設問題、移住定住問題等問題は山積していることから、諸問題を解決すべく視察を行った。

笠間クラインガルテンは、茨城県笠間市が整備した「滞在型貸し農園」で農業体験と宿泊を組み合わせた施設である。他にもトレーラーハウスやRVパークも完備、秋の時期であれば栗拾い体験、蕎麦打ち体験など様々なアクティビティを備えている。

今回の視察を通じて滞在型農業体験施設の運営実態や利用者層の特徴を把握するとともに、施設整備における理想と現実の差を改めて認識した。本町では、限られた資源を活かしながら、できるところから一歩ずつ取り組みを進めていくことが、町の活性化につながる現実的な方向性であると感じた。



笠間クラインガルテンにて

視察年月日 令和7年8月19日

視 察 場 所 茨城県猿島郡境町

日の出町と共通点が多いともいえる境町が、様々なメディアで取り上げられるほど注目を浴びる事業展開の中で、子育て支援や教育環境整備など状況を把握すべく視察を行った。

境町は、子育て支援、教育環境整備以外にも多種多様な事業を展開しているが、財源として積極的・効率的な補助金の獲得、ふるさと納税寄付額、それに基づく目的別基金の創設等により、継続的な事業運営を行っている。

境町のような多方面からの施策展開は、現状の財政規模では困難であるが、日の出町は平成28年度に単独福祉施策により合計特殊出生率1.82という全国平均を大きく上回る成果を挙げた実績がある。この成功事例を踏まえ、今後は本町の実情に即した少子化対策・子育て支援策を積極的に調査・検討し、速やかに実施へと移す必要があると強く感じた。



さかい子育て支援センター S-WORK+KIDS にて

令和7年度 各会計の決算を集中審議（9月9・10日）

9月9・10日に予算決算常任委員会が開催され、歳入歳出に対して約282にわたる質疑等が出され、活発かつ慎重に審議が行われました。

9月18日の最終日には、委員長による審査経過・結果報告の後、採決により5つの会計決算全てが認定されました。

主なQ & A

一般会計

Q 経常収支比率、財政指標や健全化判断比率など、決算時における状況は。

A 経常収支比率は補助費等が減

となった一方、人件費、物件費、扶助費が増となった。分子、分母ともに増となったが、分母の増が上回ったことにより、昨年度と比較し、3.0ポイント改善した。

Q 実質単年度収支が平成28年度以来マイナスに転じているが、実質単年度収支をマイナスに

してまで社会資本等整備基金への積み増しを急ぐのは何故か。

A 新学校給食センターの整備、公共施設の老朽化対策費用が多額になる状況を踏まえて、社会資本等の整備基金に積み増しをしている。

Q ご当地ナンバープレートの交付枚数は。

A 9月1日現在、原付一種（白色）45件、原付二種乙（黄色）19件、原付二種甲（ピンク）50件、合計114件。

Q コミュニティバス運行補助金増加傾向の理由は。

A 令和6年度は2,143万77円で、前年度より約400万円上昇。西東京バスの運転手

不足等による賃金アップが主な要因と考えている。

Q 設置型ベビーケアルーム3台の利用状況と今後の設置予定は。

A 保険センター31回、町役場1階が21回、教育センター1階が36回の合計88回の利用があった。今のところ増設の予定はない。

Q 自転車ヘルメット購入補助金の実績と今後の予定は。

A 令和5年度195件、6年度171件の申請があった。都の2ヶ年限定の補助事業の為に令和7年度以降の予算計上はない。

Q 今後のマイナンバーカード普及促進の取組みについて。

A 普及率は約74%。利便性の啓発や福祉施設での課題に配慮し普及をしていきたいと考えている。

Q 子ども家庭センター整備工事、6,210万円の詳細は。

A 令和6年度は建築工事、設備

工事、バリアフリーが遡及されて施工。

Q クーリングシェルトーは役場庁舎ほか8カ所に設置されている。利用者が快適に滞在する空間と冷房設備は整っているか。

A 快適に過ごせる環境を構築。熱中症の特別警戒情報、特別警戒アラートに備えている。

Q 保育士キャリアアップ補助金、1園で186万4,000円の内容は。

A 保育士が保育の専門性を高めながら、やりがいを持って働くことができるよう保育士等のキャリアアップに向けた取り組みに要する費用を一部補助している。

Q 熊防除対策委託事業の内容は。

A ツキノワグマが出没すると見込まれるところの町有地の草刈り、除草などで東京都から受託した事業。また林道等の看板設置のための看板購入費などを計上した。

Q 熊出没注意の看板は町内のどこ
の場所に何力所か。

A 林道や野鳥の森の散策路など
9力所に設置した。

Q 地球温暖化対策計画事務事業
編定委託料110万円の内
容は。

A 公共施設を主に各課で所管す
る施設等へCO₂削減に向け
た目標を掲げた計画。一部業
者にアドバイス等々を委託し、
110万円委託料を支出した
もの。

Q 町民グラウンドのトイレにつ
いて、老朽化を指摘する声が
あがっているが、改修等の計
画は。

A 築35年を超えているので、耐
用年数的にも改修等を視野に
入れる時期である。予算等を
踏まえて検討を始めている。

Q 谷沢体育施設整備委託料に
ついて、外部委託内容の詳細
は。

A グラウンド整備、及び駐車場
周りの草刈り等、サッカー場
については天然芝のため、施

肥や薬剤散布、エアレーショ
ン等を行っている。頻度は週
三回、人員は一人。

Q 国の天然記念物であるシダレ
アカシデの現状は。

A 土壌改良や保護柵の設置等の
周辺整備の他、東京都及び住
友林業株式会社等にてプロ
ジェクトチームを発足し、組
織培養による原木の保存と後
継樹の育成を行っている。

Q 農業振興事務経費地域計画策
定補助業務委託料234万3、
000円の業務委託内容は。

A 地域計画を作成するに当たり
意向調査の実施及び分析、目
標地図の作成及び協議の場の
運営等専門的な業務を委託。

Q 原油・物価高騰における肥
料等購入助成金391万4、
000円の助成内容と人数は。

A 国際情勢等に伴う肥料価格の
高騰に加え、コロナ禍におい
て、原油価格及び物価高騰の
影響を受けた農業者に対し令
和6年度は25名に交付。

Q 商工会活性化事業補助金
495万3、516円の内容
は。

A 令和6年度からの補助金で商
工会の活性化と町内商工業の
振興を目的に商工会が実施す
る事業に対する補助金。

Q 橋梁長寿命化修繕計画修正委
託料570万9、000円の
内容は。

A 令和3年度から令和5年度に
かけて実施した橋梁点検の結
果を踏まえ必要な修繕の計画
に対し修正を行い策定したも
の。

Q 充電式特殊LED投光器購入
費154万円は何基購入か。
2基購入した。

特別会計

国民健康保険

Q 調定額の傾向について。

A 生産年齢人口の減少・前期高
齢者の比率の高まり・低所得
化傾向・中小企業の保険適
用範囲拡大・各種軽減措置の
拡大等から減少傾向を見込む。

保険料の見直しや保険税給付
管理の単位化を議論中。

介護保険

Q 基金繰入金1、894万2千
円の発生要因は。

A 令和3年度から令和5年度と
比較し令和6年度は給付の上
昇があり、保険料の急激な上
昇を抑制するため、準備基金
を取り崩し充当した。

後期高齢者医療

Q 健康状態不明者等への相談指
導について。

A 令和6年度から開始された事
業。国保中央会データベース
システムより28人を選定。保
健師が健康状況を把握した結
果、今年度は1名に介入。

下水道事業

Q 下水道使用料が対前年比4、
16%増加している要因は。

A 大口事業所などでは雨水の浸
出水を事業所内で処理し下水
道に放流している。6年度は
5年度より降雨量が多かった
ことが起因と考えている。

西多摩地区議長会議員研修会



演題 「西多摩地域の医療連携について」

パネリスト

西多摩医師会会長 医療法人財団利定会 進藤医院院長
進藤 幸雄 氏

市立青梅総合医療センター病院事業管理者
大友 健一郎 氏

西多摩地区地域医療検討部会副会長 青梅市議会議員
島崎 実 氏

ファシリテーター

西多摩地区地域医療検討部会会長 あきる野市議会議員
村野 栄一 氏

西多摩郡町村議会議長会議員親睦会



瑞穂町、檜原村、
奥多摩町の議員と
パラスポーツ「ボッ
チャ」を通し、交流
を深めました。

町村議会広報研修会



出典：「議長会の活動 全国町村議会議長会 <https://www.nactva.gr.jp/php/topics/detail/1639>」

町民の皆様に見やすく、読みやすい議会だよりにするため、LINE CUBE SHIBUYA にて実施された全国町村議会議長会主催の広報研修会に参加しました。

編集後記

二十四節気のひとつ、霜降（そうこう）に入り読書にぴったりな秋の夜長。読書の秋にちなんで親子で図書館に足を運ぶのも楽しいものです。この機会に色々な本に触れてみてください。さて、当議会だより編集委員会も新体制になり、町民の皆さまに愛されるよう努力をしているところです。お気づきの点がありましたら、どうぞ、お気軽にご連絡よろしくお願いいたします。

編集委員 下向辰法

議会だより編集委員

野崎 智経
下向 辰法

玉井 大
大澤 弘子
(編集委員長)

鈴木 正彦
縄井 貴代子

発行 日の出町議会

編集 議会だより編集委員会

〒190-0192 西多摩郡日の出町平井2780 TEL 042 (588) 5148 (直通) FAX 042 (597) 4369

再生紙を使用しています。